

富山県小矢部市（国内 38 例目）の高病原性鳥インフルエンザ発生農場に係る
疫学調査チームの現地調査概要

令和 3 年 1 月 23 日に実施した現地調査により、以下のことを確認した。

1 農場の周辺環境

- ① 当該農場は、平野部の河川沿いに位置し、付近は田畑に囲まれている。
- ② 調査時、発生農場から約 50m の距離にある河川でコガモ 398 羽、ヒドリガモ 116 羽、カルガモ 110 羽等、計 700 羽以上の水鳥類が認められた。
- ③ 当該農場にはウィンドレス鶏舎 2 棟と開放鶏舎 3 棟の計 5 棟があり、ウィンドレス鶏舎は各棟の内部が壁で区分され、1 棟あたり 2 鶏舎となっていた。また、開放鶏舎の各棟の間は内部で行き来が可能な構造であった。発生鶏舎は農場の最も入口側に位置するウィンドレス鶏舎であった。発生時には、ウィンドレス鶏舎 1 棟のうちの 1 鶏舎、開放鶏舎 1 棟を除き、すべての鶏舎で採卵鶏が飼養されていた。また、農場には GP センターが併設されていた。
- ④ 当該農場のある地域では、今月 7 日から 11 日の大雪により、1m 程度の積雪があった。

2 通報までの経緯

- ① 飼養管理者によると、1 日あたりの死亡鶏は農場全体にて、家畜保健衛生所への通報前日まで 100 羽程度で推移していたところ、1 月 22 日に発生鶏舎において 1,000 羽以上、別のウィンドレス鶏舎でも、約 1,000 羽の死亡鶏が確認されたことから、通報したとのこと。
- ② 1 月 22 日の死亡鶏は発生鶏舎内に散在していたが、6 段ケージの上段にて死亡羽数が多かったとのこと。また、約 1,000 羽が死亡した別の鶏舎においても 8 段ケージの上段にて死亡羽数が多かったとのこと。なお、上段ケージを確認するためのバッテリー式の台車が 1 月 20 日の寒波に伴い、その日のみ稼働できなかったとのこと。
- ③ ウィンドレス鶏舎 2 棟の集卵数の推移を確認したところ、1 月 20 日には平時よりも 1 割程度下がっていた。

3 管理人及び従業員

- ① 当該農場では専属の従業員 26 名のうち 7 名が鶏舎管理を担当していた。飼養管理者によると、毎日鶏舎において鶏の健康観察を行うとともに、死亡鶏の回収を行っていたとのこと。
- ② 鶏舎ごとに担当者が決まっており、ウィンドレス鶏舎では各鶏舎 1 名が管理に携わっていた。ただし、機械の修理等の際には、担当でない他の鶏舎に入ることもあったとのこと。

4 農場の飼養衛生管理

- ① 飼養管理者によると、従業員は農場専用の作業着と長靴に交換し、手指消毒を行い、農場に入っていた。鶏舎毎に専用の長靴と踏み込み消毒槽を設置していたが、長靴の履き替えの際、農場専用の長靴で通過した経路を鶏舎内の長靴で通過（交差汚染）していた。また、各鶏舎に入る際には、手洗いを実施していたとのこと。
- ② 鶏舎横の飼料タンク上部には蓋が設置されており、タンク内への野鳥等の侵入やタンク内の飼料への野鳥の糞等の混入の可能性は低い状況であった。
- ③ 飼養管理者によると、飼養鶏への給与水は井戸水を利用しており、貯水タンクに貯め、塩素消毒を行った後、各鶏舎に供給していたとのこと。
- ④ 発生鶏舎からの鶏糞の処理は、週 1~2 日、系列農場敷地内にある当該農場専用の堆肥舎に搬出していた。堆肥場に入出入りする際、消毒ゲートによる車両消毒を行って

いた。

- ⑤ 飼養管理者によると、健康観察時に回収した死亡鶏は、農場内の死亡鶏処理装置で処理していたとのこと。
- ⑥ 飼養管理者によると、オールイン・オールアウトを行っており、オールアウト後は鶏舎内の清掃・消毒を行っていたとのこと。
- ⑦ 飼養管理者によると、鶏舎周囲に週1回程度、農場敷地内及び農場前の道路に昨年秋以降2回、消石灰を散布していたとのこと。
- ⑧ 飼養管理者によると、車両が当該農場に出入りする際、入口に設置された消毒ゲートによる消毒を行っていたとのこと。
- ⑨ 発生鶏舎であるウィンドレス鶏舎の構造は、高床式であり、床下から給気し、天井裏から排気するタイプの鶏舎であった。また、冬季は鶏舎内温度が下がらないよう、入口側と鶏舎奥側上部に設置された換気扇により給気し、暖かい空気を下層に循環させていた。

5 野鳥・野生動物対策

- ① 発生鶏舎では、鶏舎から集卵ベルトが外へ出る開口部に小型の野生動物が侵入可能な隙間があった。また、除糞ベルトの鶏舎外への開口部は、閉じられていなかった。鶏舎の壁には、ネコ等が侵入可能な隙間が認められ、除糞ベルトの開口部に繋がっていた。また、隙間の前にはネコのものと思われる足跡も確認された。
- ② 飼養管理者によると、発生鶏舎内でネズミ、時折、ネコも見かけることがあるとのこと。調査時にも発生鶏舎内でネズミの糞やネコが確認された。なお、業者に委託し、ネズミ対策は行っており、鶏舎内の複数箇所に殺鼠剤が散布されていた。
- ③ 調査時、鶏舎屋根にハトが40羽以上、スズメ30羽以上等の野鳥が多く留まっているのが確認された。